団体名：苫小牧腎友会
回答日：令和２年 12 月 16 日

要望書（回答）

①苫小牧市では、重度障害者タクシー料金助成制度、福祉ハイヤー助成制度、市内路線バス無料乗車証交付制度があります。これに加え、６年前から自家用車による通院補助として、年額9,000円の支給を受けられるという選択肢が増えました。透析患者の自家用車に対する通院補助は、通院の多様性と実態に対応しているものであり、心より感謝申し上げます。苫小牧市福祉のまちづくり条例の第13条にて「市は、福祉のまちづくりに関する施策を推進するため、必要な財政上の措置を講じるよう努めるものとする。」とあります。自家用車の通院補助制度の維持に加え、この制度が始まって数年経過していることから、自家用車の通院補助額の適正化について再度、検討頂けますよう、お願い申し上げます。

【回答】（福祉部障がい福祉課　担当）
自家用車の通院補助制度については、年々着実に受給者数が増加傾向になっていることなどから、現時点では制度の維持に努めたいと考えています。
なお、補助額についてですが、通院補助が始まってから数年経過しましたが、現段階では適正な補助額と考えておりますので、今しばらくは現行の内容のまま実施していきたいと考えています。

②臓器移植は、透析患者が透析を逃れる唯一の手段です。北海道では今年度、558人の腎臓移植希望者（臓器移植ネットワークの公表データ）が待機しています。今年に入ってから10月までに、道内では、５件の腎臓移植手術が実施されました。北海道での移植件数の推移をみると、移植医療は前進するどころか、むしろ、後退しているようにさえ思えます。この原因は、移植実施までの待機年数が平均20年以上と、たいへん長いことが挙げられます。苫小牧腎友会では例年、港まつりにて、保険証や免許証の裏に明記された意思表示欄に意思表示の記載をお願いする声掛け活動を行なっておりましたが、今年は、新型コロナウィルスを考慮して、港まつりが中止となり、十分な活動ができない状態です。できるだけ多くの方に、臓器移植の現状を知って頂くには、たくさんの人が見る媒体で情報を提供することが重要です。そこで、市が出版する媒体において移植の現状について説明する内容の掲載を検討頂けますよう、お願いいたします。

【回答】（健康こども部健康支援課　担当）

臓器移植の普及啓発については、毎年10月の臓器移植普及月間に合わせて市役所の庁内放送で周知を図っているところですが、今後については、広報とまこまいを活用し、臓器移植の現状や重要性、臓器提供意思表示カード記入について、広く市民周知を図ってまいります。

③苫小牧市の福祉のまちづくり条例第11条には「市は、高齢者、障害者等に関し、災害時における安全性を確保するため必要な措置を講じるよう務めるものとする。」とあります。災害対策の一環として、災害時の要支援者の確認と名簿作成の活動をして頂いていることについて感謝申し上げます。要支援者を把握することは、災害対策の第一歩として意義があることで、今後もこの活動を継続して頂けるよう、お願い申し上げます。このことに関して、苫小牧腎友会がお役に立つことがあれば、協力は惜しまないつもりですので、宜しくお願い致します。さらに、名簿等が整った次の段階として、実際に災害が起きた際の要支援者への駆けつけ行動は、町内会の単位で行うのが現実的と考えられます。引き続き、居住地区や集合住宅の部屋単位での要援護者支援、避難誘導の役割分担ついて、具体的な訓練を実施して頂けますようお願い申し上げます。

私達の透析には、透析設備とスタッフ、透析機械を動かす電力を得るための予備の発電機に加え、大量の水が必要です。透析を行うには、これらの確保が必須です。さらに、透析施設が使用不能の状態を想定した対策として、苫小牧市と北海道透析医会と市域内だけでなく、市域を超えて施設側との事前協議や患者の受け入れ医療機関との打ち合わせが必要と思われます。昨年度の要望書提出の際に、市内の透析施設の代表者による会議が行われたと聞きました。今年度の代表者会議の開催状況や、会議の結果について情報公開をして頂けますよう、お願い致します。

【回答】（市民生活部危機管理室　担当）

災害時における助け合い、いわゆる「共助」の取組の一つである避難行動要支援者支援制度につきましては、市としましても大変重要であるとの認識から引き続き町内会などの御協力のもと、本制度の取組を推進してまいります。

また、要支援者支援の訓練につきましては、胆振東部地震の際に複数の町内会で要支援者宅への訪問や電話による安否確認も実施されており、こうした実例を各町内会に紹介するなど、より多くの地域で実効性のある訓練につながるよう働きかけてまいりたいと考えております。

（健康こども部健康支援課　担当）

透析連携ミーティングにつきまして、主催者側より腎友会様の御参加について了承を得ておりますが、現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止しているところです。

開催の折には、改めてお声掛けさせていただきます。

④現在まで治療法がなかった難病を自分の細胞を使って必要な臓器を再生する道を開いたiPS細胞に代表される再生医療は、難病の治療への扉を開こうとしています。７年前から全腎協、道腎協、苫小牧腎友会においてiPS細胞による再生医療への協力と推進を活動計画に入れ、希望を持って活動しております。全国に先駆け、全道の患者、家族、施設、協力団体の皆さんで、iPS細胞による再生医療への支援として、募金と研究者への励ましの手紙など患者それぞれの思いを届ける活動を行なっております。これは、研究の進捗をただ傍観しているのではなく、少しでも研究の後押しをしたいとの思いからです。そして、これらの医療の進歩が我々透析患者に生きる勇気を与えてくれますし、また、市民の皆さまにも関心を持ってもらうことで、病気を抱える患者の理解にもつながればと願っております。また、苫小牧に住む患者、市民の皆さまがお互いを理解しあい、共生、共存の出来る街、福祉の街づくりに役立つことを心から願っております。市民の皆さまが再生医療に関する情報に接する場を設けて頂けるような配慮をお願い致します。

【回答】（健康こども部健康支援課　担当）

再生医療については、専門家による市民向けの講演会等の開催が有効と考えており、昨年、腎友会様から要望を受け、京都大学iPS細胞研究所【CiRA（サイラ）】へ講演依頼を行いました。

研究所からは、新たに京都大学iPS細胞研究財団を立ち上げるために講演会への講師派遣は出来ない旨の返答をいただいており、開催を断念した経過がございます。

コロナ禍の影響もあり、多くの市民を対象とした講演会の開催が難しい状況下ではございますが、今後も再生医療講演会開催に向けての講演依頼を継続してまいりたいと考えております。

⑤昨今、高齢化に伴う医療費の増加が問題となっております。日頃、人工透析医療で生命を維持している我々として、この問題から目をそむけることはできないと感じております。今年度、我々は社会貢献の一環として、CKD（慢性腎臓病）医療講演会の実

施を計画しておりました。しかしながら、新型コロナウィルスのために、講演会の実施を来年度へ延期することになりました。来年度の実施時期は、今のところ未定です。実施した際には、多くの腎臓病になりつつある方にお越し頂けるように、医師会や、はすかっぷプラザ（旧 保健センター）だけでなく、苫小牧市とも積極的に連携して、CKD講演会を進めていきたいと存じます。例えば、市の共催に加え、広報誌で周知して頂く等の協力をお願いしたく存じます。

【回答】（健康こども部健康支援課　担当）

自覚症状に乏しいCKDを早期に発見し適切な治療につなげるためには、CKDの概要や予防方法について多くの市民に知っていただくことが大切であると考えております。

講演会の開催にあたりましては、広報とまこまいや市公式ホームページ、フェイスブックで周知を図るなど、多数の方に参加していただけるよう取り組んでまいります。